

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：秋田大学附属病院連携施設 精神科専攻医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：筒井 幸

住 所：〒 010-8543 秋田県秋田市本道 1-1-1

電話番号：018 - 884 - 6122

F A X：018- 884 - 6445

E-mail：tsutsui@med.akita-u.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：(25) 人

■ 応募方法：

書類は、郵送またはE-Mailで受け付ける。

郵送の場合は、【〒010-8543 秋田県秋田市広面字蓮沼 4 4 番 2 秋田大学医学部精神科医局 新専門医研修制度担当】に簡易書留で、表に朱筆で「専門医研修応募書類在中」と記載のうえ発送のこと。

E-Mailの場合は<tsutsui@med.akita-u.ac.jp> (担当者：筒井) へ書類をPDF形式にて添付し、件名を「精神科新専門医研修応募」として送信のこと。

■ 採用判定方法：

当科教授、准教授、医局長による面接を行い、結果は郵送または e-mail にておって連絡を行う。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

本プログラムは基幹施設である秋田大学医学部附属病院精神科（以下、秋田大学病院）と県内 19 施設、岩手県 1 施設の研修連携施設により構成される精神科専攻医プログラムである。総合病院と専門病院の両者における研修、精神科救急の拠点における研修、地域医療を支える研修、リサーチマインドを涵養する研修が本プログラムの特徴である。

研修 1 年目は研修基幹施設である秋田大学病院において精神医療の基本的な研修を行う。秋田大学病院は総合病院であり、全県の身体合併症拠点でもあるため同院では幅広い症例と治療場面を経験することが可能である。また同院では m-ECT や治療抵抗生統合失調症に対するクロザピン療法なども経験する。同院にて研修する傍ら、専攻医は週 8 時間地域専門病院において地域医療について研修する。対象となる地域専門病院は中央地区の秋田東病院、今村病院、回生会病院、笠松病院、加藤病院、協和病院、杉山病院、清和病院、緑ヶ丘病院、および県南地区の市立大曲病院、象潟病院、菅原病院である。いずれも地元で根ざし長期に渡り地域精神科医療を支えてきた病院である。中央地区の 9 施設と象潟病院、菅原病院は、輪番で秋田県精神科救急医療システムに参加している。市立大曲病院は地域の中核総合病院と密に連携し、リエゾンや緩和ケアの

診療応援を行っている。

研修 2 年目は精神科救急拠点病院である県北地区の能代厚生医療センター、大館市立病院(2019 年度より)、中央地区の市立秋田総合病院、県南地区の横手興生病院、全県拠点病院である県立リハビリテーション精神医療センター、岩手県の南光病院のいずれかにて研修を行う。中でも市立秋田総合病院、能代厚生医療センター、大館市立病院は総合病院として精神科救急および身体合併症拠点病院の役割を担っており、そこでは幅広い症例が経験できる。

研修 3 年目の前半は全ての研修連携施設の中から専攻医の希望する施設で研修する。前述の施設群に加え、総合病院として緩和医療や外来治療、合併症治療やリエゾンなどを幅広く学習できる中通総合病院や秋田日赤病院にても研修が可能である。後半は秋田大学病院で研修する傍ら、週 8 時間地域専門病院において研修する。なお、研修 2、3 年目に連携施設で研修する期間も週 4 時間は症例報告、臨床研究については秋田大学病院の同一の指導医が指導する。研修 3 年目より社会人大学院に入学することも出来る。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 61 1/3 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	3492	1611
F1	602	228
F2	4676	2051
F3	4447	820
F4	3596	242
F5	501	121
F6	250	51
F7	763	138
F8	307	21
F9	216	54

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：秋田大学
- ・施設形態：大学付属病院
- ・院長名：羽渕 友則
- ・プログラム統括責任者氏名：三島 和夫
- ・指導責任者氏名：三島 和夫
- ・指導医人数：(7) 人
- ・精神科病床数：(36) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F 0	291	20
F 1	18	3
F 2	297	114
F 3	544	109
F 4	455	25
F 5	267	78
F 6	7	0
F 7	19	1
F 8	10	0
F 9	7	0

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

当院は613床を有する大学医学部付属の総合病院である。精神科病棟は全開放36床である。隔離室を含め8床は個室（うち1室は感染症対応）であり、

身体合併症への対処のためのパイピングが施されている。また、4床室の全てにも同様の配管がなされており、m-ECT後のリカバリなどに対応している。身体合併症の全県拠点病院に指定されており、各科と連携しながら身体・精神科治療を同時に行うことが可能である。

高度専門医療機関として、難治の統合失調症(F2)や、難治性うつ病(F3)に対する m-ECT（修正型電気けいれん療法）、治療抵抗性の統合失調症(F2)に対するクロザリル療法を行っている。また、神経症性障害(F4)、児童思春期症例や認知症、リエゾン精神医学、緩和医療、精神科救急（身体合併症を含む）など、幅広い疾患と治療場面を経験できることも特徴である。

研究は、過眠症や睡眠覚醒リズム障害などの睡眠障害に関する臨床研究、自己免疫性辺縁系脳炎に関する臨床研究、杉葉揮発成分が及ぼす認知機能改善効果の検討および臨床精神薬理学的研究が主なものであり、豊富な症例のもとで臨床研究と臨床研修の並立が可能である。

B 研修連携施設

① 施設名：秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

・施設形態：公的病院

・院長名：兼子 義彦

・指導責任者氏名：兼子 義彦

・指導医人数：(4) 人

・精神科病床数：(200) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F 0	138	432
F 1	41	20
F 2	569	120
F 3	655	95
F 4	434	27
F 5	20	-
F 6	37	12
F 7	28	-
F 8	26	-
F 9	13	-

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

当院は精神病床 200 床、一般病床 50 床、療養病床 50 床で構成されている。精神病床については、2つの病棟、100床が認知症専用病棟であり、一般精神医療は3つの病棟、100床を使用している。後者のうち、1病棟、40床は急性期治療病棟となっている。

当院における精神医療の特徴としては、年余にわたる長期入院者はほとんどおらず、急性期、救急医療に力を入れていることが挙げられる。当院は県の精神科救急医療システムの中で第三次機関に指定されており、365日、24時間体制で患者を受け入れ、年間210例を超える救急入院がある。疾患としては、てんかん、双極性障害が他院よりも多く、特にその診断、治療技術が蓄積されている。また、認知症医療に関してはCT、MRI、SPECTによる画像診断を活用し、総合的診断が可能な体制となっており、機能訓練部の50名前後の訓練関係職員を活用し、積極的なリハビリテーションも行われている。

当院での研修により、一般的な急性期及び救急精神医療に関して実践を通じて深く学ぶことと同時に認知症医療に関しても診断及びその治療、処遇に関して包括的に学ぶことが可能である。

② 施設名：社会医療法人興生会 横手興生病院

・施設形態：私的単科精神科病院

・院長名：杉田 多喜男

・指導責任者氏名：杉田 多喜男

・指導医人数：(6) 人

・精神科病床数：(322) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	127	59
F1	22	25
F2	31	128
F3	67	72
F4	54	11
F5	5	0
F6	3	2
F7	18	13
F8	12	2
F9	6	1

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

秋田県南に位置し、秋田県精神科救急医療の県南の地域拠点病院として、夜間・休日を含め年 365 日の稼働を継続し運営しており、48 床の精神科救急病棟を含め 322 床の病床を有し、平成 21 年 4 月社会医療法人に認定されている精神科単科病院です。

精神科救急、児童精神医学（主に外来）、依存症の他、精神鑑定、医療観察法（指定通院医療機関）も含め司法精神医学にも取り組んでおります。また、ア

ルコールミーティング（断酒会連携）、訪問看護（アウトリーチ）、保健所精神相談、生活訓練施設、就労（ジョブコーチ）など症例の治療を経験することができる。更に精神障害者の全国障害者スポーツ大会、市民交流バレー、家族会、ボランティア活動を含めて、地域の精神保健福祉活動にも注力している。

これまで、精神保健指定医の取得者も平成9年以降平成27年末までの期間に、計12名の取得実績をあげている。

③ 施設名：医療法人 祐愛会 加藤病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：加藤 倫紀
- ・指導責任者氏名：加藤 倫紀
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(160) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	27	36
F1	2	7
F2	11	33
F3	20	11
F4	75	15
F5	1	2
F6	0	0
F7	0	0
F8	0	0
F9	0	0

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

秋田市郊外の小規模精神科病院です。比較的急性期を扱う精神一般病棟 45 床、認知症を専門とする認知症疾患治療病棟 55 床、慢性期を主な対象とする精神療養病棟 60 床からなります。

ここ数年は、秋田大学精神科で研修の前半を修了された先生方に、措置入院等、比較的大学で経験の難しい症例の取得に協力させて頂いています。学会参加や、研究日についても協力可能です。

④ 施設名：岩手県立南光病院

- ・施設形態：公的病院（単科病院）
- ・院長名：土屋 輝夫
- ・指導責任者氏名：高橋 浩二
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：届出病床 382 床（稼働病床 332 床）
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	203	25
F1	90	13
F2	1370	180
F3	626	91
F4 F50	417	30
F4 F7 F8 F9 F50	954	46
F6	26	5
その他	310	3

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

岩手県立の精神科単科の病院です。一関市を中心とした県南地域の精神科拠点病院として、岩手県精神科救急医療体制において県南地域の常時対応施設及び医療観察法（通院医療機関）に指定されています。当院では精神科救急医療としての急性期入院治療病棟（48床）をはじめ、地域医療として訪問看護、デ

イケア等が充実しており、アルコール、児童思春期症例まで幅広い経験が可能です。

また、隣接して岩手県立磐井病院（総合病院）にあることから、リエゾン・コンサルテーション精神医学の体験が可能です。その他、治療抵抗性患者に対するクロザリル療法やデポ剤などによる薬物療法にも積極的に取り組んでおり、m-ECT（修正型電気けいれん療法）を平成28年度から開始する予定にしています。

地域との連携関係は「両磐精神医療連絡会」を主催して“顔の見えるネットワーク”を構築しており、地域の関係機関と良好な関係のもと地域移行を積極的に行っています。

⑤ 施設名：医療法人慧眞会 協和病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：善本 正樹
- ・指導責任者氏名：善本 正樹
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(120) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	84	54
F1	25	11
F2	94	91
F3	170	62
F4	120	16
F5	6	5
F6	6	0
F7	36	7
F8	16	0
F9	36	0

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

当院は、精神科医及び高齢者医療を主とした地域の中核病院です。サテライトクリニック及び介護施設を併設しています。児童思春期から高齢者まで幅広く臨床経験をつむことができます。

外来では、発達障害外来、睡眠相談外来、お薬相談外来など専門外来を立ち上げています。

入院では、急性期から慢性期リハビリまで対応しており、最近では長期入院の退院支援リハビリに力を入れています。また、精神障害者または認知症アウ

トリーチ（訪問支援）を行っており、徐々に実績を上げております。

さらに、当院では、抗精神病薬単剤化率が80%前後であり、薬剤師の回診同伴など適切な薬物治療を推進しています。”家族の様に大切な存在”を病院メッセージとして、人を大切にする医療を目指しています。

⑥ 施設名：今村病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：稲庭 千弥子
- ・指導責任者氏名：稲庭 千弥子
- ・指導医人数：(4) 人
- ・精神科病床数：(223) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	387	294
F1	34	28
F2	310	282
F3	10	24
F4	3	6
F5	8	24
F6	2	3
F7	154	35
F8	0	3
F9	0	0

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

当院では、症状性を含む器質性精神障害（F0）や、統合失調症・統合失調症型障害及び妄想性障害（F2）、気分障害（F3）などの疾患に対する診療を行っている。また、内科（神経内科、消化器、呼吸器、循環器、代謝科など）、整形外科、リハビリテーション科、心臓血管外科、脳外科などの協力を得て、合併症症例やリエゾン症例、地域医療などの診療場面を経験することができる。

地域医療としては、保健所の嘱託医として保健師と一緒に訪問が医療保険の往診以外にもあり、さらに知的障害者の施設・精神障害者の施設・高齢者施設の嘱託医にもなっているため、施設への往診も多い。

通院・生活訓練・精神デイケア利用者には高齢化した合併症の多い精神障害者・重複障害者が多く、栄養食事療法への関わり・精神科以外の専門医の協力・リハビリテーション専門職（PT・OT・ST）との関わりがより強化されている。健康運動療法士やレクリエーションワーカーなどの専門職の協力も得て、チームアプローチにより診療やサポートを行っている。

また、若年者に対しては、特別支援学校との協力や臨床心理士がスクールカウンセラーとして関与する中でチームとして関わっている。

⑦ 施設名：大館市立総合病院(2019年度より研修可)

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：舘岡 博
- ・指導責任者氏名：小山智教
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(60) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	59	49
F1	35	26
F2	350	71
F3	328	38
F4 F50	313	21
F4 F7 F8 F9 F50	346	23
F6	6	2
その他	264	29

【施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)】

当院は一般病床 375 床、精神科病棟 60 床を有している。平成 28 年 10 月に認知症疾患医療センターをオープンし、地域の認知症診療拠点として機能している。またがん診療拠点病院でもあり緩和ケアチームに属し、豊富な治療経験を積むことができる。さらにはコンサルテーション・リエゾン医学ではせん妄を主とした多彩な器質性精神疾患についての症例を経験する事ができる。その他、精神科救急はもちろん、難治性統合失調症患者に対するクロザピンによる薬物治療や修正型電気けいれん療法も実施可能であるなど、地域の重篤な患者を積極的に受け入れている。

⑧ 施設名：地方独立行政法人市立秋田総合病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：伊藤 誠司
- ・指導責任者氏名：内藤 信吾
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(60) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	570	80
F1	35	19
F2	526	82
F3	862	85
F4	750	16
F5	17	3
F6	20	0
F7	25	7
F8	50	0
F9	68	1

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

当院は、一般病床 398 床、精神科病床 60 床を有する秋田市の中核的総合病院である。更に、秋田市内で精神科閉鎖病棟を有する唯一の総合病院である。診療科は 25 科に及び、第二次救急指定病院でもあるので、精神科疾患に限らず身体疾患においても多彩な症例を経験する事が可能である。当院の特徴として各科には県内のオピニオンリーダーが多数在籍しており、また各科の敷居が低く気軽に他科医師とのやり取りが可能であり、身体疾患への知識を深める事も出来る。他科からのコンサルテーション。リエゾン依頼は多数に及び、特に認知症・せん妄など精神的問題を合併する高齢者に対する精神科的アプローチを学

ぶ絶好の機会に恵まれている。また、緩和ケアチームに参加し、がん医療における精神科的治療経験を積むことも可能である。

当科の診療範囲は広範囲に及ぶ。従来の精神科の代表疾患であった気分障害や精神病圏、神経症圏は言うに及ばず、人口動態の高齢化の影響もあり認知症や症状・器質性精神障害を診療する割合が増加している。特に認知症領域に関しては「もの忘れ外来」を開設しており、検査機器や臨床心理士などのスタッフも充実しており、加えて神経内科・脳神経外科との相互診療も可能であり、充実した診療体制を敷いている。

また、最近増加している発達障害圏に造詣が深い医師・臨床心理士が在籍しており、学習の機会に恵まれている。m-ECTやクロザピン、認知行動療法などの他院では施行できない治療が可能である事、秋田県内初である精神科リエゾンチームを有している事も追記する。

最後に当院の最も特徴的な部分は、身体合併症を有する精神障害患者の診療に長けている点である。特に身体状態の変化による精神状態悪化時の対応などを研鑽する機会は、秋田県内最多であると思われる。

⑨ 施設名：市立大曲病院

- ・施設形態：公立単科精神科病院
- ・院長名：大谷 和生
- ・指導責任者氏名：大谷 和生
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(120) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	351	105
F1	25	9
F2	272	87
F3	292	69
F4	114	11
F5	8	0
F6	22	0
F7	63	3
F8	0	1
F9	0	1
G40	39	0

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

当院は全国でも数少ない市立の単科精神科病院であり、地域密着型の精神医療を志しております。利便性の良い立地で精神科病棟 70 床と認知症治療病棟 50 床を有しており、地域の統合失調症圏や気分障害圏の方々のみならず、増加している認知症の方々への対応に力を入れております。行政をはじめ地域の関係他職種とも連携を密にしつつ、地域の認知症対策にも取り組んでおり、認知症関連の啓蒙活動や相談、診断・治療からマネジメントにいたるまでのプロセスを経験できます。

また、地域中核総合病院と密接に連携しており、精神科リエゾンや緩和ケアなどの診療応援にも携わっています。このため通常の単科精神科病院の枠を超え、幅広い臨床経験を積むことが期待できます。

⑩ 施設名：秋田回生会病院

・施設形態：私的単科精神科病院

・院長名：飯島 壽佐美

・指導責任者氏名：松本 康宏

・指導医人数：(6) 人

・精神科病床数：(402) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	23	70
F1	18	22
F2	383	358
F3	315	69
F4	210	23
F5	10	1
F6	11	6
F7	50	15
F8	8	4
F9	2	1

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

児童思春期から成人、老年期の年代に渡るあらゆる精神科臨床を対象とする。病床総数 402 のうち、急性期治療病棟（42 床）、認知症治療病棟（60 床）を有し、精神科救急や認知症の診断・治療・マネジメントについても学ぶことができる。

⑪ 施設名：秋田東病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：豊田 洋
- ・指導責任者氏名：豊田 洋
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(140) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	3	123
F1	0	0
F2	1	22
F3	3	5
F4	1	1
F5	0	0
F6	2	11
F7	0	8
F8	0	0
F9	1	0

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

当院では入院治療を中心に行っています。外来治療は関連の精神科クリニックが担当しています。当院の入院においては認知症疾患と老年期の精神病疾患が大半を占めており、老年期症例が中心となっています。精神病疾患としては慢性期の統合失調症が中心となります。認知症治療病棟では生活機能回復訓練に力を入れることで地域での生活への復帰を目指し、また、精神療養病棟では精神科作業療法、生活技能訓練に取り組み地域社会での生活への移行を目指しています。

また、当院では精神科救急輪番も担当しており、上記以外の症例への対応も

行っています。さらに関連の精神科クリニックでは多彩な年齢層の ICD F3, F4, F8, F9 群への対応が中心となっており、少数ながら当院でその入院治療も行っています。

⑫ 施設名：医療法人久盛会 秋田緑ヶ丘病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：後藤 時子
- ・指導責任者氏名：齊藤 靖
- ・指導医人数：(5) 人
- ・精神科病床数：(388) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	54	72
F1	13	14
F2	353	276
F3	212	64
F4	93	12
F5	2	1
F6	6	3
F7	5	5
F8	3	1
F9	2	0

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

秋田緑ヶ丘病院はデイケア、訪問看護ステーションを併設する総病床数388床（精神科急性期治療病棟46床、特殊疾患病棟52床、認知症治療病棟50床、精神療養病棟240床）の精神科病院で、病院周辺にはグループホーム、指定相談支援事業所ならびに就労継続支援事業所などの多様な社会復帰施設も備えており、『友情を図り、「生きる喜び」と「希望」を育み、「安全・安心・信頼」の医療を実現します。』という病院理念のもとで個々の患者さんのニーズに合った多様な精神医療福祉サービスを提供しています。

主に対象とする疾患は総合失調症、感情障害、ストレス関連障害、認知症疾

患です。特に近年は、急性期治療病棟の8床をストレス・ケアに充て、また認知症疾患治療センターを開設するなど、これらの疾患群に対する医療体制を拡充しました。

この様に充実した環境のもとで、外来診療はもとより急性期入院治療からリハビリテーションに至るまでの抱括的な精神科臨床を通して、総合的に精神医療を研修することが可能です。

⑬ 施設名：象潟病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：曾我 正人
- ・指導責任者氏名：竹島 強
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(162) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	25	42
F1	8	13
F2	76	97
F3	65	15
F4	28	5
F5	0	0
F6	6	0
F7	72	10
F8	0	0
F9	0	0

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

当院はにかほ市唯一の精神科病院であり、162床の精神病床を有する。保護室6床を有するため、急性期の症例を多数経験することができる上、措置入院の受け入れも可能である。

また、当院は秋田県の郡部にあるため認知症症例も多数受け持つことができ、関連施設の老人保健施設やグループホームと連携して診療を行うことができる。

アルコール依存症や薬物依存症患者も多数通院しており、中毒性精神障害の症例も経験できる。

⑭ 施設名：医療法人 仁政会 杉山病院

・施設形態：私的単科精神科病院

・院長名：渡邊 浩

・指導責任者氏名：杉山 和

・指導医人数：(1) 人

・精神科病床数：(136) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	71	14
F1	19	1
F2	126	23
F3	81	5
F4	0	0
F5	0	0
F6	0	0
F7	0	0
F8	0	0
F9	0	0

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

当院は精神科136床、内科療養病床144床を合わせた280床を有する医療法人病院である。精神療養病棟の開放42床・閉鎖44床、認知症治療病床50床

主に統合失調症、気分障害、アルコール・薬物等依存、認知症などの治療にあっている

⑮ 施設名：医療法人 清風会 清和病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：藤枝 信夫
- ・指導責任者氏名：藤枝 信夫
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 133 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	10	105
F1	1	3
F2	24	30
F3	12	15
F4	11	16
F5	30	0
F6	3	0
F7	70	10
F8	6	0
F9	0	0

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

当院は入院病床133床を有する単科の精神科病院です。単科の精神科病院としては珍しく、透析センター（25床）を有しているため、一般的な精神科の外来・入院症例の他に、精神科疾患に慢性腎臓病を合併した症例を経験することが可能です。さらに、秋田県精神科救急医療体制の輪番制当番病院に登録しているため、秋田市周辺精神科救急医療圏における輪番当直を体験出来ます。

また、秋田市の精神科救急において高次の救急医療機関の指定を受けている市立秋田総合病院と連帯関係にあるため、救急入院患者の亜急性期の症例を経験出来ます。外来では一般外来のほかに、精神科訪問診療にも力を入れている

ため、通院困難な症例に対する往診医療を体験出来ます。

さらに、社会福祉法人秋田育明会と精神科領域に関し提携をしているため、障害者支援施設「柳田竹生寮」の症例を通して、てんかん、自閉症症例の成人症例を経験出来ます。

最後になりますが、当院の院長は精神科産業医として秋田市内の数ヵ所の事業所で活動しているため、うつ状態となった労働者の復職を中心とした症例を経験することが可能です。

⑩ 施設名：中通総合病院

- ・施設形態：一般総合病院精神科
- ・院長名：鈴木 敏文
- ・指導責任者氏名：沓澤 理
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(6) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	252	1
F1	175	0
F2	64	2
F3	252	22
F4	648	1
F5	19	0
F6	6	0
F7	15	0
F8	26	0
F9	11	0

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

当院は病床数 450 床、25 診療科を有する総合病院であり、多彩な疾患、症例を経験することが可能である。

リエゾンコンサルテーションでは身体合併症を併存する精神疾患に対する対応において、他科の医師をはじめとする多職種スタッフとどのように連携をとっていくのかを学ぶことができる。

緩和ケアチームに参加し、がん医療における精神医学的なアプローチに関して学び経験を積むことが可能である。

⑰ 施設名：JA 秋田厚生連 能代厚生医療センター

- ・施設形態：総合病院
- ・院長名：近田 龍一郎
- ・指導責任者氏名：齊藤 英知
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(60) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	500	25
F1	100	12
F2	600	80
F3	300	40
F4	200	20
F5	100	5
F6	100	5
F7	40	5
F8	40	3
F9	10	0

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

- ・身体合併症患者への対応、リエゾン・コンサルテーション

総合病院であるため、身体合併症を有する患者へ対応したり、他科からの依頼に応じたりするケースがしばしばある。こうしたケースに適切に対応する能力を習得できる。

- ・精神科救急

県精神科救急医療圏の地域拠点病院となっており、精神運動興奮状態、自殺

企図、自傷行為など様々な救急患者に対応する技能を習得できる。

- ・薬物・身体療法

難治例に対しては麻酔科と共同して修正型電気けいれん療法を施行したり、血液内科医と連携してクロザピンによる治療を施行したりできる。

- ・デイケア・作業療法への関わり

デイケア・作業療法のスタッフ（作業療法士、看護師など）とともにプログラムの評価、作成などに関わることができる。

- ・心理検査・心理面接

臨床心理士と十分話し合い、適切な心理検査を施行し、その結果について協議したり、心理面接を施行することができる。

⑱ 施設名：医療法人緑陽会笠松病院

・施設形態：私的単科精神科病院

・院長名：金山隆夫

・指導責任者氏名：金山隆夫

・指導医人数：(2) 人

・精神科病床数：(192) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	10
F1	0	32
F2	162	192
F3	87	68
F4	24	22
F5	2	1
F6	1	0
F7	2	18
F8	0	1
F9	0	0

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

1) 当院は一般精神科治療を行う精神科単科病院で開放・閉鎖病棟を有しており、主治医性をとっている為、外来から入院、さらに退院後のフォロー等がシームレスに経験することが出来ます。

2) (1) 当院で経験できる疾患(病名)

- ①統合失調症、②気分(感情)障害、
- ③精神作用物資による精神及び行動の障害、
- ④症状性を含む器質性精神障害(認知症など)、

- ⑤神経性障害、ストレス関連障害及び身体的表現性障害、
- ⑥成人の人格及び行動の障害、
- ⑦てんかん及び関連した精神症状

(2) 当院で経験できる各種治療場面

- ①精神科救急、②行動制限、③地域医療

(3) 当院で経験できる治療形態

- ①入院治療(自発的入院と非自発的入院治療、医療保護入院、措置入院)
- ②外来治療

- 3) 上記以外の疾患・治療形態などは現在の当院では研修が難しいですが、周辺総合病院大学病院との連携のもと可能な限り研修の幅を広げていく予定です。
- 4) 研修中は指導医及びその他の医師(指定医)による個人指導や集団でのカンファレンスや評価を行い、指導医取得や専門医試験受験資格獲得の援助をいたします。

19. 施設名：秋田赤十字病院

- ・施設形態：総合病院
- ・院長名：小棚木 均
- ・指導責任者氏名：橋本 誠
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(0) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	104	0
F1	24	0
F2	118	0
F3	347	0
F4	425	0
F5	8	0
F6	3	0
F7	9	0
F8	20	0
F9	25	0

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

①当院は、496床 35診療科を有する総合病院で、県唯一の救命救急センターを持つ。また、県から委託された周産期母子医療センター、神経病センターも擁し、緩和ケアチームと病棟カンファランス、腎センター（透析センター）、自殺未遂患者、小児科との合同カンファランスなど、豊かな症例を経験でき、かつコンサルテーション・リエゾン精神医学のさまざまな実際も体験できる。

②臨床心理士が常勤2名、非常勤1名所属し、いずれも18歳以下の思春期・児童（特に発達障害）の経験が可能である。診察、カウンセリングを協働して症例検討もすることで臨床の力をつけることもできる。

20. 特定医療法人 荘和会 菅原病院

- ・施設形態： 私的単科精神科病院
- ・院長名： 菅原 和彦
- ・指導責任者氏名： 北條 康之
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(240) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F 0	128	59
F 1	35	22
F 2	218	90
F 3	218	19
F 4	90	10
F 5	0	1
F 6	11	6
F 7	138	7
F 8	7	0
F 9	63	50

【施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）】

当院は、精神科入院病棟 60 床、精神科急性期治療病棟 60 床、地域移行機能強化病棟 60 床、精神科療養病棟 60 床を有する特定医療法人の精神科単科病院で、急性期から慢性期治療、リハビリテーションと幅広く精神障害者の社会復帰に取り組んでおります。

措置入院への対応および医療観察保護法指定通院病院の役割を遂行し、かつ精神科訪問看護、デイケア、障害者自立支援センター、共同生活援助、就労支援B型などにも力を入れています。

また、最近が高齢の方が精神科に受診しやすいようにと「ものわすれ外来」も作っております。高齢患者の身体疾患については、院内だけではなく市中の総合病院との連携によって、可能な限り対応できるようにしています。

当院の理念は「笑顔のためにこれからも 地域と共に歩む 精神医療を目指します」です。このために、患者様・御家族への対応だけではなく、地域の皆様へ精神科疾患への理解とご協力をお願いするため、地域交流会で種々の催しや講演、市民講座なども行っております。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。

1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。

各年次毎の到達目標は以下の通りである。

【到達目標】

1年目：指導医のもとで、統合失調症、躁うつ病、てんかんなど精神科領域における代表的な疾患の診察と治療にあたる。この際、問診の取り方、診断、検査、治療計画、適切な薬物療法などの基本を学ぶ。また、院内リエゾンを通してベッドサイドでの患者評価、せん妄などに対する薬物療法の選択についても経験を積む。適切な症例があれば、地方会で症例報告などの学会発表を行う。

2年目：主に精神科救急指定病院にて、精神科救急医療を学ぶ。指導医のもとで、より積極的に急性期のファーストタッチから治療導入、患者主治医間の良好な関係作り、退院へ向けてのケースワークや社会資源の利用なども含め、自らの力で考え深めた治療計画を実行する。適切な症例があれば、全国規模の学会でポスターセッションやオーラルセッションでの発表を行う。

3年目：1、2年目で学んだことをブラッシュアップさせ、指導医から自立し、単身で診察・診断・治療が可能となる。個々の希望に応じ、地域専門病院、総合病院、救急指定病院での研修を行う。研修病院の特徴や地域医療の実際を理解し、今までの経験を生かし積極的に関わっていく。適切な症例があれば、症例報告などの論文投稿を行う。社会人大学院生として大学院に進学し臨床研究を開始することも可能である。なお、指定医の取得に必要な症例をも確実に経験できるよう、研修施設群と調整する。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別

紙)を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

基幹施設にて他科の専攻医とともに施行される研修会を受講する。また、学会に参加し専門医共通講習や学会 e-learning などを受講し、理解を深める。

社会性に関しては、精神科救急やリエゾンを通し、他院の精神科医や一般科医のみならずコメディカルとのやりとりやディスカッションを通して身につけてゆく。

② 学問的姿勢

常に最新の医学的知識を得、知識を更新するために、基幹施設では定期的に抄読会やクルズスを開催する。また、担当したケースに関しては入退院カンファランスにて発表を行い、類似の症例の検索、文献調査などを積極的に行う。その中で特に意義があると思われるものに関しては学会発表や論文を執筆する。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じ、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに、精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンなどといった精神科特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設にて、臨床研究に従事しその成果を学会発表、あるいは論文執筆の形で総括する。

⑤ 自己学習

学会誌をはじめとする精神科専門雑誌や専門書を読んだり、e-learningによる自己学習を行い、知識の蓄積とアップデートを常に心がける。基幹施設、連携施設ともに複数の雑誌を定期購読しており、それらを活用する。その他、学会等で作成している研修ガイド、DVDなどを活用し、知識の研鑽を心がける。

4) ローテーションモデル

1年目、週32時間は基幹施設(秋田大学附属病院)にての研修を行い精神科医としての基本的な姿勢と知識を身につける。残りの8時間は地域専門病院^{*1}にて、慢性期の精神科治療とともに作業療法や社会復帰に向けた就労支援などに関して研修する。

2年目は、週36時間は精神科救急指定病院^{*2}にて、主に精神科救急医療に関わり、基幹施設で経験が難しい措置症例や応急入院などのケースを経験する。週4時間は基幹施設でのスーパーバイズを受け、今後の目標の設定や変更などの打ち合わせなどを行う。その他希望やふさわしい症例がある場合は、臨床研究の打ち合わせ、論文執筆なども行う。

3年目前半は週32時間を自由選択とし、上記以外の総合病院^{*3}、地域専門病院を含めて研修を行い、週4時間は基幹施設でのスーパーバイズを受ける。また、希望に応じ臨床研究の打ち合わせ、論文執筆などを行う。

3年目後半は週32時間を基幹施設にて研修を行い、8時間は地域専門病院にて研修を行う。

連携施設が20施設と多く、救急指定病院、総合病院、地域専門病院が県内の各二次医療圏に複数あり、選択の幅が広いのが当プログラムの強みである。とくに、総合病院は5施設と連携しておりうち3件は救急指定病院でもある。総合病院での研修を必須としているので、身体合併症やリエゾン、緩和医療にも対応可能な知識を習得することができる。

3年間を通し、身体合併症を含む救急・急性期医療から慢性期、社会資源の活用、リエゾンや緩和医療などのチーム医療などを広範に学ぶことが可能であり、また難治例治療や児童思春期、認知症などまんべんなく症例を経験することができる。

- ※ 1 : 秋田東病院、今村病院、回生会病院、笠松病院、加藤病院、協和病院、杉山病院、緑ヶ丘病院、清和病院、象潟病院、市立大曲病院、菅原病院
- ※ 2 : 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター、市立秋田総合病院、能代厚生医療センター、大館市立病院(2019年度より)、横手興生病院、南光病院（岩手県一関市）
- ※ 3 : 中通総合病院、秋田日赤病院

5) 研修の週間・年間計画

別紙参照

4. プログラム管理体制について

- ・ プログラム管理委員会

- 委員長 医師：三島 和夫
- 副委員長 医師：筒井 幸
- 医師：塚本 佳
- 医師：斎藤 靖
- 医師：沓澤 理
- 医師：金山 隆夫
- 医師：稲庭 千弥子
- 医師：豊田 洋
- 医師：藤枝 信夫
- 医師：加藤 倫紀
- 医師：内藤 信吾
- 医師：斎藤 英知
- 医師：杉田 多喜男
- 医師：善本 正樹
- 医師：大谷 和生
- 医師：兼子 義彦
- 医師：佐藤 靖（2019年度より）

- 医師：竹島 強
- 医師：杉山 和
- 医師：土屋 輝夫
- 医師：橋本 誠
- 医師：菅原 和彦
- 医師：高橋 裕哉
- 看護師：高山 賢路
- 精神保健福祉士：金子 幸太

- ・プログラム統括責任者

三島 和夫

- ・副プログラム統括責任者

筒井 幸

- ・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および、実務担当の指導医によって構成され半年に一度ミーティングを行う。

また、内容に関しては定期的にブラッシュアップが行われる。

5. 評価について

1) 評価体制

秋田大学附属病院：三島 和夫

秋田回生会病院：塚本 佳

緑ヶ丘病院：斎藤 靖

中通総合病院：沓澤 理

笠松病院：金山 隆夫

今村病院：稲庭 千弥子

秋田東病院：豊田 洋

清和病院：藤枝 信夫

加藤病院：加藤 倫紀

市立秋田総合病院：内藤 信吾
能代厚生医療センター：斎藤 英知
横手興生病院：杉田 多喜男
協和病院：善本 正樹
市立大曲病院：大谷 和生
秋田県立リハビリテーション・精神医療センター：兼子 義彦
大館市立病院：佐藤 靖(2019年度より)
象潟病院：竹島 強
杉山病院：杉山 和
南光病院：土屋 輝夫
秋田日赤病院：橋本 誠
菅原病院：菅原 和彦
秋田大学附属病院看護師：高山 賢路
秋田大学附属病院精神保健福祉士：金子 幸太

2) 評価時期と評価方法

- ・ 3ヶ月に一度、プログラムの進行状況に関して、専攻医と担当する指導医間にてミーティングを行う。目標の修正や必要があればプログラム内容の変更などを行い、その内容を研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 6ヶ月に一度、研修目標の達成度を当該研修施設の指導責任者と専攻医が個々に評価し、話し合いを持つ。その中で、必要に応じて研修内容の変更や修正などを行う。また、多職種からも選考医の態度、コミュニケーション能力などについて評価を受け、これを本人と指導責任者にフィードバックする。
- ・ 1年後に、当該年度のプログラム進行状況や研修目標の達成度を指導責任者が確認し、専攻医とミーティングを行う。それを受け、次年度の研修計画をお互いに相談の上で作成する。またその結果を統括責任者にフィードバックする。その際の専攻医の研修実績・評価には研修記録簿システムを用いる。

- ・ 以降も上記に従い、指導医の下、研修ガイドラインに則って3年以上の臨床研修を行う。研修の結果どのような技術を取得出来たかを、チェックリストにより評価する。また、症例報告のまとめと提出も行う。これらを併せて評価し、プログラム統括責任者と面接を行い受験資格が認められたことをもって修了したものとする。
- ・ 専攻医は、研修修了時に指導医ならびにプログラムに対する評価を記載し、指導責任者を通じて当該施設の研修委員に提出する。この審議結果を研修プログラム管理委員会に報告し、プログラムのブラッシュアップなどに活用してゆく。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記録し、定期的に指導医による評価やフィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、年1回おこなう。

秋田大学病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価は保管する。専攻医による、専門研修施設や専門研修プログラムに対する評価も同時に保管を行う。プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル(別紙)
- 指導医マニュアル(別紙)

・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、定期的に専攻医自身が形成的評価を記録する。記載された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、年に1回は各分野の形成的自己評価を行う。年度末には一年間の総括的評価が行われる。

・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自らの達成度評価をおこない、指導医も形成的評価を行い都度記録する。年1回、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従い、各分野の形成的評価を行う。達成されなかった項目や不十分な項目に関しては、指導医と専攻医の間で話し合いを行い具体的な改善点や方針などを記録し、翌年度の研修に生かす。

6. 全体の管理運営体制

専攻医の就業環境の整備（労務管理）

基幹施設および連携施設の研修責任者とプログラム統括責任者は専攻医の労働環境改善と安全の保持に努める。

専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従う。

さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始の時点で説明を行う。

研修年次毎に専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は秋田大学医学部附属病院精神科専門研修管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれる。

1) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。各施設の指導担当者が専攻医の心身の状態に留意し、必要があればフィードバックを行ったり受診を促すなどの処置をとる。

2) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて半年に一度にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。また、その結果は全連携施設に直ちに共有され、プログラムに反映させるものとする。

3) F Dの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し、各施設における研修
況を評価する。改良が必要な事項については話し合いを行う。

ローテーションモデル

研修プログラム1年目



- 平日4時間、週2回地域医療の研修
- 一年間は上記スケジュールで、病院間の異動など基本なし

研修プログラム2年目

主に精神科救急拠点病院 総合病院 or リハセン、横手興生、 南光病院など 36時間	大学 4時間
---	-----------

- 2年目は主に精神科救急拠点病院での研修(希望、状況に応じ変更可能)
- 半日は大学へ、学会発表、論文作成、研修進捗の確認、フィードバックなど

研修プログラム3年目

前半	選択制(どの病院でも可)	
後半	大学32時間	地域医療 8時間

- 3年目より社会人大学院入学可
- 前半は救急拠点、地域、総合病院、大学、どれを選択しても可

週間スケジュール

基幹施設:秋田大学付属病院

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	外来予診、病棟業務	外来予診、病棟業務	外来予診、病棟業務	クロザリル CPMS 入力、 外来予診、 病棟業務	外来予診、病棟業務
9:00-12:00	外来予診、病棟業務	外来予診、病棟業務	外来予診、病棟業務	クロザリル CPMS 入力、 外来予診、 病棟業務	外来予診、病棟業務
13:00-17:00	病棟業務、リエゾン 午後救急担当（週1回程度）	13:00～薬剤カンファランス 13:30～病棟カンファランス 病棟業務、リエゾン	13:30～ m-ECT 準備、 治療 病棟業務、 リエゾン	13:30～ m-ECT 準備、 治療 病棟業務、 リエゾン	15:00～教授 回診 病棟業務、 リエゾン
17:00-19:30		17:00～クルーズ 18:00～医局会 19:00～抄読会			

※SR3は午前に週1回予診、週2回程度再来

※SR1とSR3後半は週8時間の地域医療研修を月水木金曜日のいずれかに行う。

※いずれの施設においても、就業時間が40時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

連携施設

1:秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

	月	火	水	木	金
8:30- 9:00			症例検討会	論文抄読会	
9:00- 12:00	外来診療 病棟業務	外来診療 病棟業務	外来診療 病棟業務	外来診療 病棟業務	外来診療 病棟業務
13:00- 17:15	外来診療 病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	センター長総回診 外来診療 病棟業務
(終日)	※ 救急 : 随時対応				

2:社会医療法人興生会 横手興生病院

	月	火	水	木	金
8:30- 12:00	外来予診 病棟業務	病棟業務	外来予診 病棟業務	病棟業務	病棟業務
13:00- 14:00			保健所精神 相談(第2・4)		
13:30- 14:00		医局会		病棟カンファ (最終木曜なし)	
13:00- 17:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務 EEG・CT・ MRI 読	病棟業務 NST 委員会	病棟業務
17:00-	指導医付当 直	担当症例 振り返り		担当症例 振り返り	

※ 週1～2回精神科救急体験

3:医療法人 祐愛会 加藤病院

	月	火	水	木	金	土
8:45-12:00	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
13:30- 16:00	病棟業務	病棟業務		専門外来	病棟業務	
16:00- 16:30	病棟業務	病棟業務		症例検討 会	病棟業務	
16:30- 17:15	病棟業務	病棟業務			病棟業務	

4:岩手県立南光病院

	月	火	水	木	金
8:00-8:30	医局カンファレンス（フィルム、新患紹介、ベッド確認など）	医局カンファレンス	医局カンファレンス	医局カンファレンス	医局カンファレンス
8:45-12:15	主に外来診療	主に外来診療	主に外来診療 アルコール外来	主に外来診療	主に外来診療 児童外来
13:15-17:15	主に病棟診療	主に病棟診療 児童外来	主に病棟診療	主に病棟診療 児童外来 精神保健相談 児童相談所 高田こころの相談室	主に病棟診療
13:15-13:30	多職種カンファレンス	多職種カンファレンス	多職種カンファレンス	多職種カンファレンス	多職種カンファレンス
17:30-18:30			医局会（月1回） 医局勉強会（月1～2回） 医薬品説明会（随時）		

(岩手県立南光病院続き)

※ 外来診療、病棟診療については主な時間帯を表示※ デイケア、精神科作業療法、訪問看護は連日午前午後

※ 急患対応は24時間365日※ 職場研修会は不定期開催(月に数回 13:15-14:00)

5:医療法人慧眞会 協和病院

	月	火	水	木	金
8:50~9:00	朝ミーティング	引き継ぎ	引き継ぎ	引き継ぎ	引き継ぎ
9:00~12:00	病棟	外来	外来・病棟	外来	病棟
12:00~12:30	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
13:30~15:30	病棟・訪問診療	ミニ講義	病棟・訪問診療	ミニ講義	病棟・訪問診療
15:30~16:30	病棟	症例カンファレンス	病棟	健康教室	病棟
16:30~17:00	診療部会	引き継ぎ	引き継ぎ	委員会	引き継ぎ

6:今村病院

	月	火	水	木	金
8:30 ～ 9:00	医局申し送り 病棟申し送り	病棟申し送り	医局申し送り 病棟申し送り	病棟申し送り	医局申し送り 病棟申し送り
9:00 ～ 12:00	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務
12:45 ～ 13:30	病床調整会議 (毎週) 症例検討 (毎週) 医局会議 (月1回) 保険委員会 (月1回) 医薬品検討委 員会(月1回)	行動制限最小 化委員会 (月1回)	安全管理委員 会(月1回)	院内感染対策 委員会(月1 回)	地域リハビリ 連絡会議 (月1回)
13:30 ～ 17:00	病棟業務、 リエゾン 外来業務 病棟申し送り	病棟業務、 リエゾン 外来業務 院長回診 脳波勉強会 (月1回) 病棟申し送り	病棟業務、 リエゾン 外来業務 病棟申し送り	病棟業務、 リエゾン 外来業務 病棟申し送り	病棟業務、 リエゾン 外来業務 病棟申し送り

※外来業務(交代制)

※救急対応(地域輪番制) 4～5コマ/月

7:大館市立病院 (2019年度より)

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	8:30~	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
	9:00	レンス	レンス	レンス	レンス	レンス
	9:00~	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
	12:00					
午後	13:00	外来・リエゾ	外来・リエゾ	外来・リエゾ	外来・リエゾ	外来・リエゾ
	~15:00	ン業務	ン業務	ン業務	ン業務	ン業務
	15:00	病棟カンフ	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
	~16:00	アレンス				
	16:00	病棟業務	病棟業務	外来カンフ	病棟業務	病棟業務
	~17:30			アレンス		

8:地方独立行政法人市立秋田総合病院

	月	火	水	木	金
午前	8:15 医師ミーティング 9:00 m-ECT 10:00 新患診療	9:00 新患診療	7:30 救急症例検討会 9:00 m-ECT 10:00 新患診療	9:00 m-ECT 10:00 新患診療	9:00 m-ECT 10:00 新患診療
午後	14:00 リエゾン・コンサルテーション 15:00 病棟対応	14:30 リエゾン・コンサルテーション (リエゾンチーム回診) 15:00 病棟対応	14:00 リエゾン・コンサルテーション 15:00 病棟対応	14:00 リエゾン・コンサルテーション 15:03 病棟対応	14:00 リエゾン・コンサルテーション 15:04 病棟対応
夕以降	17:30 緩和ケア会議 (月1回) 救急対応	救急対応	救急対応 外来症例カンファレンス (随時)	救急対応 勉強会等 (精神療法) (薬物) (法律)	救急対応

※ 定期的に勉強会施行(テーマは年間プログラムに記載)

9:市立大曲病院

	月	火	水	木	金
8:30～ 9:00	カンファ	カンファ	カンファ	カンファ	カンファ
9:00～ 13:00	外来診察	病棟診察	外来診察	外来診察	新患診察
14:00 ～ 15:30	外来診察	病棟診察	外来診察	外来診察	新患診察
15:30 ～ 17:30	各種委員会・ 部会	各種部会	病棟カンファ 症例検討会	病棟診察	病棟診察
17:30 ～		薬事委員会連 医局会	院内勉強会		

10:秋田回生会病院

	月	火	水	木	金
8:30-12:00	外来予診	外来予診	外来予診	外来予診	外来予診
13:00-16:00	大学業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16:00-17:30	大学業務	医局会	クルズス (勉強 会)	レジデント・カ ン ファレンス	クルズス (勉強 会)

11:秋田東病院

	月	火	水	木	金
8:45-9:50	1 病棟(認知症治療病棟)回診 課題討論	月 2 回褥瘡評価	2 病棟(精神療養病棟)回診 課題討論	3 病棟(精神療養病棟)回診 課題討論	認知症治療病棟業務
9:50-12:00	生活機能回復訓練参加	生活機能回復訓練参加	生活技能訓練参加	生活技能訓練参加	認知症治療病棟業務
13:00-13:50	認知症治療病棟業務	認知症治療病棟業務	精神療養病棟業務	精神療養病棟業務	認知症治療病棟業務
13:50-15:50	生活機能回復訓練参加	生活機能回復訓練参加	生活技能訓練参加	生活技能訓練参加	認知症治療病棟業務
15:50-17:15	認知症治療病棟業務	医局会	症例検討会 / 月一回各種委員会	各種勉強会	認知症治療病棟業務

12:医療法人久盛会 秋田緑ヶ丘病院

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	医局報告会				
9:00-12:00	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務
13:00-17:00	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務
14:00-14:30			運営会議 (隔月第4週)		
15:00-16:00	症例検討・医局会議 (毎月第4週)				
15:00-16:00	薬剤委員会 (隔月第3週)				

13:象潟病院

	月	火	水	木	金
8:30-12:00	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務
13:30-17:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務 研修医とカ ンファレン ス
16:00-17:00	研修医とカ ンファレン ス	入退院カン ファレンス 病棟運営会 議		診療会議 病棟運営会 議	

14:医療法人 仁政会 杉山病院

	月	火	水	木	金
9:00-12:30	病棟業務	外来業務	病棟業務	外来業務	病棟業務
13:30-14:00	精神科カンファレンス	病棟業務	外来診療	病棟業務	病棟業務
14:00-15:30	精神科カンファレンス、病棟業務	病棟業務	外来診療	病棟業務	病棟業務
15:30-16:50	病棟業務	病棟業務	外来診療	病棟業務	病棟業務

第2. 4 金曜日 OT精神科カンファレンス 13:30～

第2 月曜日 薬事委員会 13:30～

第3 月曜日 医局会 13:30～

15:医療法人 清風会 清和病院

	月	火	水	木	金
8:45～ 9:00	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
9:00～ 12:30	外来業務、 リエゾン	外来業務、 リエゾン	外来業務、 リエゾン	外来業務、 リエゾン	外来業務、 リエゾン
13:30 ～16:0 0	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
13:30 ～16:0 0	院長回診（1 病棟）	院長回診（2 病棟）	レジデントカ ンファ	入退院カンフ ア	院長回診（3 病棟）

16:中通総合病院

	月	火	水	木	金
8:45-12:00	外来業務	隔週で外来業務、外来業務がない週は病棟業務	外来業務	病棟業務	病棟業務
13:00-17:00	病棟業務	14:30～病棟総回診と病棟スタッフとのカンファレンス、この前後は17:00まで病棟業務	病棟業務	外来業務 (14:00-17:00)	14:45～病棟総回診と病棟スタッフとのカンファレンス、この前後は17:00まで病棟業務
17:00-18:30		症例検討会、抄読会、連絡会			

17:JA秋田厚生連 能代厚生医療センター

	月	火	水	木	金
08:30～ 09:00		(電気けい れん療法)			(電気けい れん療法)
9:00～ 12:30	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
13:30～ 17:00	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン
17:30～	救急カンファ 合同画像カン ファ	症例検討会 or 抄読会	病棟会議 or ケースカン ファ		

※ 電気けいれん療法は適応になる患者がいるとき施行している

18: 医療法人緑陽会笠松病院

	月	火	水	木	金
9:00～ 12:30	外来勤務	病棟作業療法	外来勤務	病棟作業療法	病棟作業療法
13:00～ 13:30	薬剤委員会 (毎月第4月曜日)				
14:40～ 17:10	病棟勤務	病棟勤務	病棟勤務	病棟勤務	病棟勤務
14:00～ 15:00				医療安全管理委員会 訪問看護委員会 (毎月第3木曜日) 栄養委員会 (1,4,7,10月) 診療運営会議 行動制限最小化委員会 (毎月第4木曜日)	
15:15～ 16:45	OT会議 院内感染対策委員会 褥瘡対策委員会 (毎月第4月曜日)				

17:10~ 17:20	輪話会				
-----------------	-----	--	--	--	--

19.秋田日赤病院

	月	火	水	木	金
8:30～12:00	外来業務・ リエゾン医療	外来業務・ リエゾン医療	外来業務・ リエゾン医療	外来業務・ リエゾン医療	外来業務・ リエゾン医療
12:00～13:00		透析リエゾン			
13:00～16:00	外来業務・ リエゾン医療	外来業務・ リエゾン医療 ・緩和カンファ	外来業務・ リエゾン医療	緩和ケアカン ファ・ 心療センター カンファ	外来業務・ リエゾン医療
16:00～17:00	外来業務・ リエゾン医療	外来業務・ リエゾン医療	外来業務・ リエゾン医療	症例検討会	病棟業務・ 書類整理
17:00～18:00			夜間透析リエ ゾン	小児科と合 同カンファ	

20. 特定医療法人荘和会 菅原病院

	月	火	水	木	金
9:00～12:00	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
13:00～15:00		物忘れ外来	コロニー診察		
15:00～17:00	医局会 (1回/月)	院内感染防止 委員会(1回/月) 診療会議(1回/月)	クルズス	医療安全管理 委員会(1回/月) 行動制限最少 化 委員会(1回/月)	
13:00～17:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務

年間プログラム

基幹施設：秋田大学付属病院

4月	オリエンテーション/SR1 研修開始 SR2・SR3 前年研修報告書提出 大学同窓会参加
5月	県精神科懇話会参加 北東北若手精神科医の会参加
6月	日本精神神経学会学術集会参加・演題発表(SR2・SR3) 日本老年精神医学会参加（任意） アメリカ睡眠学会参加（任意）
7月	秋田こころの臨床研究会夏季セミナー参加 日本睡眠学会学術集会参加（任意）
8月	日本精神科診断学会参加（任意）
9月	
10月	研修中間報告書提出(SR1/SR2/SR3)
11月	日本総合病院精神科医学会総会参加（任意） 日本神経精神薬理学会総会参加（任意） 地方精神神経学会参加・演題発表(SR1)
12月	日本精神科救急学会総会参加（任意）
1月	
2月	県司法精神医学会参加
3月	総合評価（SR1/SR2/SR3）

連携施設

1:秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

4月	秋田精神医療懇話会定期総会
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会 日本老年精神医学会 日本精神科救急学会 日本司法精神医学会大会 院内：医療安全研修会、感染対策研修会
7月	日本うつ病学会総会 日本睡眠学会定期学術集会 認知症ケアシリーズ（外部向け研修会）開催
8月	全国自治体病院協議会精神特別部会 精神科専門医試験（受験）
9月	日本神経心理学会学術集会 精神科専門医制度指導医講習会
10月	日本てんかん学会学術集会 日本臨床精神神経薬理学会 日本精神神経薬理学会 東北精神神経学会総会 リハセン講演会開催 院内：行動制限最小化委員会研修会（座学）
11月	日本精神科救急学会 日本精神科診断学会 日本認知症学会学術集会 日本総合病院精神科医学総会 日本精神保健・予防学会学術集会 秋田精神医療懇話会 アルコール依存症臨床医等研修

	院内：医療安全研修会、感染対策研修会
1 2月	院内：行動制限最小化委員会研修会(CVPPP)
1月	東北自治体病院精神科懇話会
2月	日本嚙下医学会 精神保健指定医研修会
3月	日本社会精神医学会 日本予防医学リスクマネジメント学会学術集会

その他(毎月)	脳波勉強会、多職種症例検討会など
---------	------------------

2:社会医療法人興生会 横手興生病院

4月	<p>オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医局部門 2) 看護部門 3) PSW 部門 4) 心理部門 5) 他関連社会復帰施設 6) 電子カルテ、診療録管理 (診療データの活用) 7) 医の倫理 (人権の尊重とインフォームドコンセント) 8) 安全管理と感染対策委員会 <ol style="list-style-type: none"> ①転倒、転落の防止 ②薬物副作用の早期発見と対応 ③自殺のリスク評価と対応 ④自傷、他害行為対策と行動制限 ⑤精神保健指定医の役割 ⑥医療事故への対応 (医療事故調査制度)
5月	<p>秋田精神医療懇話会 秋田精神医学セミナー (学習会参加および報告)</p>
6月	<p>秋田司法精神医学研究会 日本精神神経学会学術総会 日本老年精神医学会 (学習会参加および報告) 障害福祉サービス運営委員会</p>
7月	<p>精神治療技法セミナー (学習会参加および報告)</p>

8月	
9月	日本自殺予防学会総会 秋田県精神科治療学研究会
10月	
11月	秋田県精神科チーム医療研究会
12月	
1月	医療観察法関連研究会研修会
2月	秋田県精神科救急医療体制連絡協議会
3月	地域自殺予防ネットワーク会議

横手興生病院クルズス一覧

- ①精神科症候学と精神科面接（患者および家族）
- ②精神保健福祉法と各種書類
- ③診断と治療計画およびパス
- ④補助検査（CT、MRI 等画像検査、脳波検査等の依頼および判読）
- ⑤精神科医学の動向
- ⑥精神科救急とそのシステム
- ⑦地域支援体制（訪問看護、アウトリーチ等）
- ⑧保健所精神保健相談
- ⑨医療観察法
- ⑩一般精神科薬物療法（重度かつ慢性疾患を含む）、修正型 m-ECT、クロザピン
- ⑪精神療法（支持的精神療法、認知行動療法、森田療法、SST、疾病教育）
- ⑫NST について
- ⑬精神科診断と疾病各論
- ⑭家族支援プログラム（統合失調症、依存疾患家族教室）
- ⑮就労支援プログラム
- ⑯レポート作成について指導事項
など

3:医療法人 祐愛会 加藤病院

4月	オリエンテーション
5月	秋田県精神医療懇話会
6月	日本精神神経学会等
7月	
8月	
9月	
10月	東北精神神経学会
11月	秋田県精神医療懇話会
12月	
1月	
2月	
3月	院内研究発表会

4:岩手県立南光病院

4月	オリエンテーション 両磐精神医療連絡会開催
5月	
6月	日本精神神経学会参加 東北児童青年精神医学会参加
7月	両磐精神医療連絡会開催
8月	全国自治体病院協議会精神科特別部会参加 岩手県立病院医学会参加 一関夏祭り参加
9月	
10月	両磐精神医療連絡会開催 東北精神神経学会参加
11月	
12月	
1月	両磐精神医療連絡会開催 東北自治体病院精神科懇話会参加
2月	
3月	

主なものを表示しましたが、学会や研修会については希望によって随時参加が可能です。

5:医療法人慧眞会 協和病院

4月	オリエンテーション ミニ講義
5月	県内学術講演参加 ミニ講義
6月	学会総会参加 ミニ講義
7月	県内学術講演参加 ミニ講義
8月	自殺予防研修会参加 ミニ講義
9月	県内学術講演参加 ミニ講義
10月	県内学術講演参加 病院祭
11月	県内学術講演参加 法人内合同研修会
12月	県内学術講演参加 忘年会
1月	県内学術講演参加 診療部新年会
2月	自殺予防研修会参加 症例検討会発表
3月	総括評価 評価報告書作成

6:今村病院

4月	
5月	秋田県精神医療懇話会
6月	「日本精神神経学会学術総会」参加
7月	「日本老年精神医学会学術総会」参加 秋田こころの臨床研究会夏季セミナー参加
8月	「秋田市精神科医の会研修会」参加
9月	
10月	「日本の高齢社会を考えるフォーラム」参加
11月	東北精神神経学会参加・演題発表 秋田県精神医療懇話会
12月	「秋田県精神保健福祉協会研修会」参加
1月	
2月	秋田県司法精神医学研究会参加
3月	

7:大館市立病院（2019年度より）

4月	オリエンテーション
5月	地域精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学会参加（任意）
9月	地域精神科医会参加
10月	日本児童青年精神医学会参加（任意）
2月	地域精神科医会参加
3月	県精神科医会参加 研修プログラム評価報告書の作成
その他	認知症疾患医療センター業務 認知症地域啓蒙活動（年数回） 集団精神療法（適宜） 緩和ケアチームの一員としての活動 デイケア 断酒会 訪問診療

8:地方独立行政法人市立秋田総合病院

4月	初任者研修 オリエンテーション 認知症教室
5月	日本精神神経学会学術総会 秋田県精神科急性期治療研究会
6月	東北児童青年精神医学会 うつ病教室 前年度研修実績報告書提出
7月	精神科リエゾンチーム研修会
8月	
9月	秋田県総合病院精神科懇話会 自殺予防学会学術集会
10月	日本臨床精神神経薬理学会学術総会 日本児童青年精神医学会学術集会 日本精神分析学会学術総会 CVPPP 研修 うつ病教室
11月	総合病院精神医学会学術総会
12月	
1月	
2月	緩和ケア研修会
3月	統括的評価 うつ病教室 研修プログラム評価報告書作成

市立秋田総合病院勉強会テーマ

4月	法と精神医学
	薬物・m-ECT I
5月	症例性・器質性精神障害
	リエゾンコンサルテーション・緩和・脳波
6月	心理検査
	精神科救急 I
7月	統合失調症
	気分障害
8月	神経症性障害
	摂食障害
9月	パーソナリティの障害
	児童・思春期精神障害
10月	睡眠障害・てんかん
	精神療法
11月	安全管理・自殺予防
	薬物・m-ECT II
12月	精神科救急 II

9:市立大曲病院

4月	オリエンテーション 介護保険審査会総会 県南若手医師の会 日本認知症学会教育セミナー（任意）
5月	県南若手医師の会 気分障害勉強会
6月	日本精神神経学会 日本老年精神医学会（任意） 県南認知症を語る会
7月	県南治療技法セミナー
8月	
9月	秋田県総合病院精神科懇談会
10月	日本認知症学会（任意） 県南若手医師の会
11月	秋田県チーム医療研究会
12月	
1月	
2月	市長懇談会
3月	大仙市医療介護多職種連携の会

その他	介護保険認定審査会（1～2ヶ月に一回）
	大曲認知症ケアを考える会（2ヶ月に一回）
	院内勉強会（毎週水曜日）

10:秋田回生会病院

4月	オリエンテーション 後期研修基幹病院抄読会参加
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 秋田県精神医療懇話会参加
7月	秋田こころの臨床夏季セミナー参加
8月	
9月	専門学会参加
10月	院内研修発表会で発表
11月	秋田県精神科チーム医療研究会参加 東北精神神経学会参加
12月	秋田県精神医療懇話会参加
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

11:秋田東病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	東北精神神経学会参加
11月	秋田精神医療懇話会参加（任意）
12月	
1月	
2月	
3月	

※ オリエンテーションは4月に限らず、必要時に行います。希望学会への参加も随時可能です。

12:医療法人久盛会 秋田緑ヶ丘病院

4月	新入社員オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会
7月	
8月	
9月	
10月	院内研究発表会
11月	東北精神神経学会
12月	
1月	
2月	
3月	院内研究発表会

13:象潟病院

4月	オリエンテーション 大学同窓会参加
5月	県精神医療懇話会 北東北若手精神科医の会参加
6月	日本精神神経学会学術総会
7月	秋田こころの臨床研究会夏季セミナー参加
8月	
9月	
10月	東北地方精神神経学会 研修中間報告書提出
11月	脳波懇話会
12月	県精神医療懇話会
1月	
2月	秋田県司法精神医学研究会参加
3月	総合評価

14:医療法人 仁政会 杉山病院

4月	
5月	障害支援区分認定審査会 県精神保健福祉協会理事会 秋田精神医学セミナー
6月	障害支援区分認定審査会 日本精神神経学会学術総会
7月	日本精神科病院協会秋田県支部例会 秋田県病院協会 理事役員会 障害支援区分認定審査会
8月	秋田県病院協会 秋田県医師会との懇話会 県内精神科病院との懇話会
9月	障害支援区分認定審査会 県行政との懇談会
10月	
11月	精神医療懇話会
12月	障害支援区分認定審査会 秋田県医療審議会
1月	障害支援区分認定審査会 看護師養成施設と病院との懇談会
2月	障害支援区分認定審査会 精神保健福祉審議会
3月	障害支援区分認定審査会 日本精神科病院協会秋田県支部例会

※ 毎月第2木曜日:精神障がい者復帰施設 嘱託医

※ 毎月第2・4火曜日:中央保健所 心の健康相談日

15:医療法人 清風会 清和病院

4月	オリエンテーション
5月	秋田精神医療懇話会に参加
6月	日本精神神経学会総会に参加
7月	東北精神神経学会総会（生涯教育研修）に参加
8月	
9月	障害者支援施設「柳田新生寮」訪問
10月	日本認知症学会学術集会に参加
11月	秋田精神医療懇話会に参加（可能なら発表）
12月	日本精神科救急学会学術総会に参加
1月	脳波判読トレーニング
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

16:中通総合病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会 秋田精神医療懇話会
7月	
8月	
9月	秋田県総合病院精神科懇話会 緩和ケア研修会
10月	東北精神神経学会
11月	日本総合病院精神医学会
12月	秋田精神医療懇話会
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成 司法精神医学研修

17:JA秋田厚生連 能代厚生医療センター

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会総会
7月	秋田県農村医学会
8月	
9月	
10月	日本デイケア学会総会（任意）
11月	総合病院精神医学会総会（任意）
12月	日本精神科救急学会（任意）
1月	
2月	地域連携医療懇話会
3月	研修プログラムのまとめと評価

18:医療法人緑陽会笠松病院

4月	新人オリエンテーション
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	病棟納涼会
10月	
11月	
12月	病棟クリスマス会
1月	
2月	
3月	症例発表会

19.秋田日赤病院

4月	オリエンテーション
5月	県総合病院精神科懇談会参加
6月	日本精神神経医学会参加・全国赤十字精神科協議会参加
7月	こころの臨床研究会
8月	
9月	県総合病院精神科懇談会参加・自殺予防学会参加
10月	日本サイコオンコロジー学会参加
11月	日本総合病院精神医学会参加・県精神医療懇談会参加
12月	
1月	年間目標を立てる
2月	
3月	年度末総括

20. 特定医療法人 荘和会 菅原病院

4月	オリエンテーション(各部門よりの講義)
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会 施設関係者向け講座開催
7月	地域交流会開催
8月	
9月	
10月	日本精神科医学会学術大会 市民講座開催
11月	
12月	秋田県精神医療懇話会
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書作成